

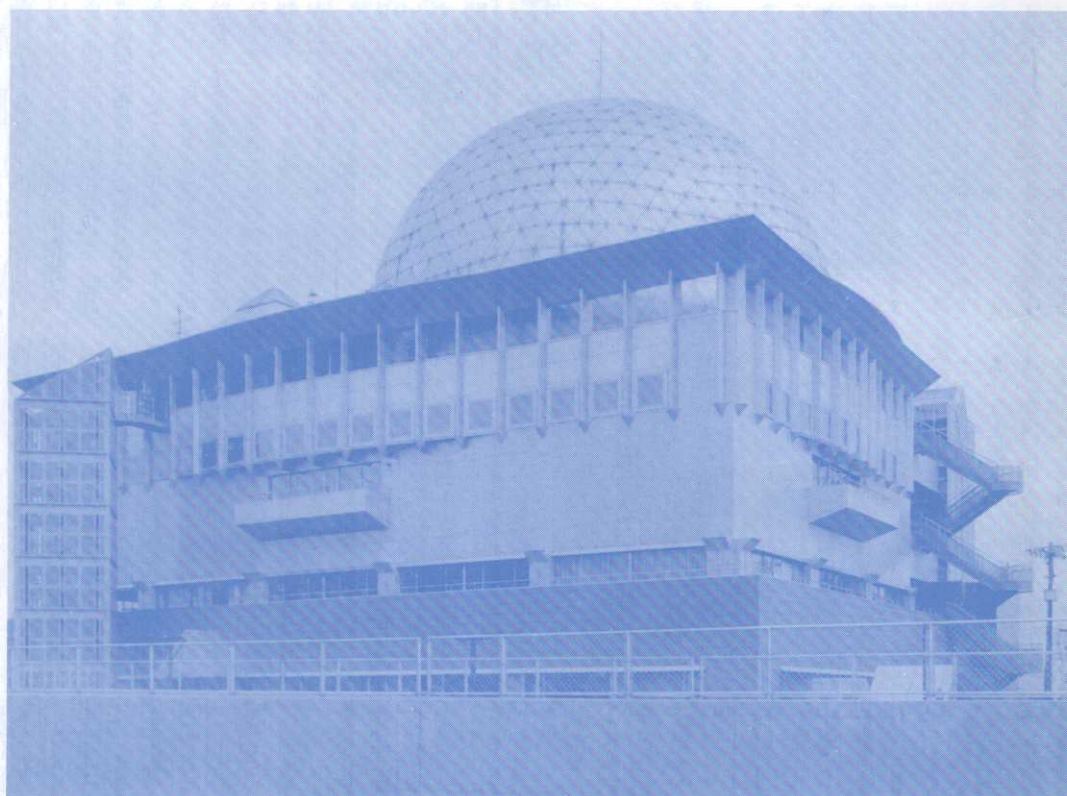


平成 3 年 1 月

第 2 号

仙台市連合町内会長会
市連長会だより

題字は石井仙台市長



仙台市子ども宇宙館（ミルポート）

目次

あいさつ.....②③

仙台市長 石井 亨

仙台市連合町内会長会

会長 大沼 悌志

仙台市議会

議長 屋代 光一

住みよいまちづくりをめざして.....③

市民局長 加藤 義雄

市政への参加のために.....④

秋保町長袋連合町内会

会長 伊藤 昭平

市政懇談会について.....④⑤

区連協活動状況.....⑥⑨

先進都市視察報告.....⑩

仙台市連合町内会長会

庶務理事 伊藤 馨

市連の活動.....⑩

編集後記.....⑩



新年のあいさつ

仙台市長 石井 亨

明けまして、おめでとうございます。

皆さまには、清々しく新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃から市政に対する暖かいご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

昨年は、内外の情勢まことに多端な一年であり、皆さまがたには何かとご苦労の多かった年ではなかったかと思えます。

仙台市政におきましては、今後の東北の発展に向けては、

新年のあいさつ



仙台市連合町内会長会
会長 太沼 悌志

設立20年の節目の年
平成三年の新春を迎え、会員各位にはご健勝で幸先のよいスタートを切られたことと心からお慶び申し上げます。

私たちの「仙台市連合町内会長会（略称「市連長会」）」も昭和四十七年五月に設立以来、今年で二十年目を迎えることになりました。設立当時から参加している私にとりましては感慨ひとしおのものがあります。

設立当時の連合町内会数は四十二連合町内会、それが現在には約倍増の八十一連合町内会に

東北開発計画に盛り込まれた「仙台広域都市圏構想」や産学官が一体となった「東北インテリジェントコスモス構想」さらに緑豊かな都市空間の創出を主眼とした「ふるさと仙台環状公園構想」などの大型プロジェクトが始動を開始したところでございます。また高齢化社会への対応につきましましては「豊齢化社会づくり元年」と位置づけ、関連する広範な諸施策を総合的に展開しておりますが、特に国の施

策に呼応し民生活導入による高齢者福祉のまちづくりである「ふるさと二十一健康長寿のまちづくり事業」のマスタープランの策定を進めております。このほか、新たな市域のまちづくりの指針となる新総合計画の策定によつて二十一世紀に向けた新しいまちづくりに積極的に対応した年であり、一九九〇年代の幕開けにふさわしく仙台市の未来が大きく展開した年でもありました。

なっております。（旧宮城地区を含みます）

しかも設立当時から現在まで連合町内会長として引続き勤めておるのは私を含めて僅か三人だけとなりました。二十年の歳月は私たちにとつても、それなりに変貌をしておるわけでありま

このように今年は設立二十年という大きな節目の年でもありますので私たち「市連長会」としても記念事業として「市連長会の二十年誌（仮称）」の発行を計画し、現在編集委員会を編成して着々準備中でありか

一方、団地や町内では住民相互の交流や互助の輪が広がり、皆で協力して住みよい環境を作ろうと言う住民自治意識が強くめばえ、皆さまがたの創意工夫による地域特性を生かした手づくりのコミュニティ活動や文化活動、ボランティア活動が市内の各所でみられました。まことに同慶の至りに存ずるところでございます。

いよいよ一九九一年来るべき二十一世紀の大都市仙台の基礎を構築する重要な時期にあたります。新しいまちづくりを進めてまいりますためには都市基盤の整備や各種都市機能の拡充、高度化などによる都市の再構築

おります。この記念誌の発行に当たつては会員各位のご協力をお願いしなければなりませんので格段のお力添えをお願いいたします。

また、これと同時に情報化、国際化、成熟化が問われており特に仙台市は最近「国際都市」として世界を展望した施策づくりが強く望まれており、私たち市民もこれらを推進するための「地域づくり」「まちづくり」を今までと違った考え方や発想で進めて行く必要があると思

幸い政令市移行後区制がしかれ、大都市行政の行政サービスが区制のメリットを大きく生かして進められてきたことは私たちにとつて大きな喜びであります。私たち「市連長会」も行政側のこのような施策の実施に対応して各「区」連合町内に

並びに多核的都市構造への転換をはじめ広域的視点に立った総合交通体系の確立など都市力の増強や人生八十年代にふさわしい健康福祉環境の整備、すべての市民がゆとりと潤いに満ちたしあわせな生活が送れる条件づくりなど多くの課題が横たわっております。これら課題は、市民の皆さまがたの市政への参加による英智を結集して解決をはかり、仙台市が東北と国土の望ましい発展に向け先導的な役割を正しく果たしてまいる所存でございます。

皆さまがたの、なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。年頭のあいさつといたします。

会長協議会（略称「区連協」）の組織をつくり、住民自治組織の中核を「各区連協」と位置づけ各区役所と一体となつて「まちづくり」を進めております。

このように仙台市は二十一世紀に向けて前述の健康、福祉、国際化を進めながら市民の幸せのための行政を推進するにあたり、行政と一体となつてその大きな推進力となるのが私たちの「市連長会」であり「区連協」であると自負しております。

平成三年度も私たちのこの役割をそれぞれ分担しながら果たしていきたいと思います。最後に各位のご健勝、ご活躍、ご発展を祈念して新春のあいさつといたします。



新年のあいさつ
和兵衛市議会議長 屋代 光

市民の皆様には謹んで平成三年の輝かしい新年を迎えられましたことに、心からお慶びを申し上げます。

常日頃、市民の皆様には市政運営にご協力をいただき、また町内会役員の方々には地域の発展に奔走され、住民福祉の向上に尽力されておりますことに厚く御礼を申し上げます。



住みよいまちづくりをめざして

市民局長 加藤 義雄

昨年は政令指定都市移行二年目にあたり、各区ごとのまちづくりが本格化した年であるとともに、市民の皆様におきましても区役所がより身近な存在となった年ではなかったかと存じます。

本市は、政令指定都市の移行を契機として市中心部の再開発や外縁部における宅地開発等、

市街地の拡大には大変目覚ましいものがあり、昨年実施されました国勢調査によりますと、九十二万余の人口を擁する東北の中枢都市として着実に発展を遂げているところであります。

これは、東北のみならず全国の方々から本市が魅力ある都市として高い評価をいただいた結果であるとうれしく思うとともに

に、く住みよいまちづくり
にご尽力いただいた皆様方のご
努力の賜と重ねて感謝の意を表
する次第であります。

二十世紀まであと僅かとな

りました今日、高齢化・情報化・国際化という大きな波が押し寄せまわづくりに多大な影響を与えておりますが、連合町内会長会におかれましては、従来の町内会活動にもまして一層の活性化育成発展に大いに寄与され、活力ある新しいまちづくり

の一翼を担っていかれるものと確信いたしております。また、本年四月の市議会議員の改選では各区毎の選出となり、議員と

地域住民とのつながりはこれまで以上に強まり、地域住民の複雑多様なニーズに、的確迅速な対応が出来る体制づくりが可能になるものと考えております。

議会といたしまして、市民の皆様の積極的な市政への参加をいただきながら、地域の特性を生かした特色あるまちづくりを進めて参る覚悟でございますので、皆様方の一層のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

最後になりましたが、町内会の益々のご発展と市民の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。新年のあいさついたします。

議会といたしましても、市民の皆様の積極的な市政への参加をいいただきながら、地域の特性を生かした特色あるまちづくりを進めて参る覚悟でございますので、皆様方の一層のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

最後になりましたが、町内会の益々のご発展と市民の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。新年のあいさついたします。

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、日頃市政運営に關しまして格別のご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

既にご案内のとおり、本市におきましては、昨年新たに策定した仙台市総合計画を基に、来たるべき二十一世紀を展望しつ

つ、市民生活の一層の向上をめざした新しいまちづくりに着手

しております。社会、経済の變化の速度が著しく、市民のニーズも多種、多様になってきている現況の中で、このまちづくり

を推進していくためには、市民総参加のもと、市民と市政が一体となって取り組んでいかなければなりません。そのためには、

皆様のご協力を賜りながら、市政懇談会や地域懇談会その他の

広聴手段を通じて、市民の皆様
の市政に対する意見、要望等を
伺い、それを市政の施策に反映
させていくことが大切であると

また、皆様が各地区で「住みよい地域づくり」をめざしたコミュニティ活動をなされており

本市におきましても、今年早々には地域振興公社を設立し、皆

様のコミュニティ活動の一助に
いたしたいと計画しております
地域振興公社では、コミュニ
ティ活動の場となっております

市民センターの管理運営を所管すると同時に、地域の活性化を図るため地域団体が行う事業への支援、助成を行い、更に、ユ

是非ご利用いただきたいと存じます。

連合町内会長会は、その前身であります仙台市連合町内会長協議会が設立されて以来、今年めでたく二十周年を迎えるよし

皆様のこれまでのご苦勞、ご功績に対し深く敬意を表しますと共に、これからのますますのご活躍をご期待申し上げます。

市政懇談会について

平成2年11月22日、勾当台会館において市政懇談会を開催いたしました。

仙台市連合町内会長会の提出議題に対して仙台市長からそれぞれ回答がありました。

回 答

1. 高速交通体系について

住みよい都市づくり、活力ある都市づくり、多核分散型の都市づくりを目指す本市にとって総合交通体系の確立は最重要施策の一つである。

その中で、軌道系交通体系の整備は快適な都市交通環境の実現上、不可欠な課題である。

お話のように、本市では地下鉄南北線を基軸に、それとクロスする東西軸の早期実現に向けて全力を傾注しているところであり、仙石線の地下事業を推進するとともに、さらに西側部分に東西線、南西線、東線等を計画している。さらに本市の産業ゾーンである卸商団地や東部地区へのサービスも検討課題としている。

また、将来的には、仙台国際空港や仙台国際貿易港へのアクセスや泉中央以北への延伸、環状形の整備も必要になってくるものと考えている。

2. 都市計画道路仙台駅宮城野原線と原町岡田線の接続について

当該都市計画道路の接続については、本市としても可能ならば実現したいものと考えており、平成元年度において平面的な検討を行っている。

ご承知のように、当該地には宮城野貨物駅や県の総合運動公園が存在しておりますので、整備の仕方について詳細な資料、検討が必要であり、平成3年度において航空測量を行い、図面の作成等を行っていく予定である。

3. J R貨物線の利用について

貨物線の旅客化につきましては、J R側にもそういう考え方がないわけではないようですので、ご提言の方向でJ R側と協議をしてみたいと思います。

4. 仙台市東部地域の災害対策について

61年8月5日の大雨以来、本市としても雨水対策を市政の最重要課題として取り組んでおり、原町東部の日の出町、扇町においても平成7年度を目標年次に雨水幹線、ポンプ場の整備を進めておりましたが、このたびこの計画を3カ年短縮し、平成4年度までに整備することといたしました。

南小泉、荒井、沖野、今泉地区については、霞目雨水幹線と今泉ポンプ場の建設を鋭意進めており、平成5年度当初には稼働させる予定です。

高砂地区については、仙台北港後地土地区画整理事業との事業調整を図っており、区画整理事業着手と同時に雨水整備を推進いたします。

更に時間降雨強度の見直しを行い、現在の排水能力を超えるものの対策として雨水の貯留などの整備を検討していきたい。

また、今回の水害を機に、庁内に両助役、関係局長による都市水害対策委員会を設置した。市街地における雨水排水処理対策、水害時の応急対策、復旧対策などの検討を行い早急に結論を出したい。



市政への参加のために

秋保町長袋連合町内会長 伊藤 昭 平

新年おめでとうございます。
昨年五月に仲間入りしました秋保地区を代表いたしまして、心から新春のお慶びを申し上げます。

秋保地区は、仙台市合併後、昨年四月に町内の自治組織である十七町内会設立を終え、同年五月に、長袋地区、馬場地区湯元地区の三連合町内会の結成を経て、太白区連に加入いたしました。ここに、名実共に仙台市への仲間入りができたわけであ

ります。

私たち秋保の住民は、大仙台市の発展と共に生きる運命共同体の体制が、ここに整ったわけで、仙台市連協への加入は、正に青史に残る画期的な年でありました。

加入に当たっては、区連協のご配慮により、市連協理事の席を秋保地区のために用意していただくなど、暖かいご配慮が身にしみ感謝の気持ちで一杯です。昨年一年間は、区連協、市連

協への仲間入りの年であり、勉強の年と考え、各種の行事に参加させていただきましました。本年は、これらを参考にしながら、各町内会との連絡提携を密にして、各町内会の充実発展に寄与するよう務めると共に、大仙台市の秋保地区発展の為に少しでも役立つことができればと願っております。

仙台市は、常に、市民と市政が一体となつての街づくりを提唱し、市民参加の市政に勤めておられますこと、誠にありがたく、ここに敬意を表するものがあります。

このような市民意識の基本には、市民一人一人の自覚と意識の高揚が必要であります。その原動力となるのは、町内会ではなからうかと思ひます。ここに想いをいたすとき、秋保町には「向こう三軒両隣」の古くからの連帯意識が今もあり、これに加えて、住民相互の親睦と融和協力のもとに、住民の福祉と地域の発展を目標に、町内会が設立されたことは意識深いことであります。

以上考えの一端を述べ私の挨拶いたします。





市政懇談会について

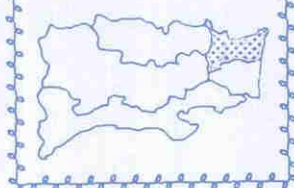
	提 案 者	要 旨
1. 高速交通体系について	(仙台市連合町内会長会提案)	仙台市は、地下鉄南北線を基幹として新たな高速交通を考えていると聞いておりますが、その実態と将来像について市長よりお聞かせいただきたい。 仙台市の発展のためにも早期実現が望まれます。
2. 都市計画道路仙台駅宮城野原線と原町岡田線の接続について	(宮城野、若林区連合町内会長協議会提案)	仙台駅宮城野原線は宮城野原運動場、市道原町岡田線は卸町西側で、それぞれ切断されておりますが、市が発展するにかせない仙台港との交通網整備線として、ぜひ実現が必要と思われるので提言いたします。
3. JR 貨物線の利用について	(宮城野、若林区連合町内会長協議会提案)	現在同線は貨物専用線として、宮城野区及び若林区内を横断運行しておりますが、これを旅客をも併用し市民の足として利用させると共に新駅の新設を提言いたします。
4. 仙台市東部地域の災害対策について	(宮城野、若林区連合町内会長協議会提案)	以前は災害は忘れたころにやってくるのとたえがあったが近年は頻繁にあり、その降雨により大変な被害を宮城野区、若林区とも被っておりますが、市としても計画を検討されておると思いますが早急に対策をお願いいたします。 (両区内被災地) 宮城野区内 扇町、日の出町地区一帯 高砂駅前地区 福住町一帯 若林区内 蒲町(南小泉消防出張所附近) 白山団地一帯 荒井土地区画整備地内 大和町地区一帯 六郷地区天神橋一帯

青葉区



平成元年四月発足以来当協議会は、街づくりの基盤となるべく町内会を中心に、そのまとめ後の二十六地区連合会の協議と連携のもと今日に至っています。わたしたちの組織は、地域にあつての諸活動の母体的役割をもちつつ、地域環境整備や、地

宮城野区



平成二年度は、私達区連協にとって、活動内容を充実し、区を基盤とした地域コミュニティ活動の形成を図る上で、大変重要な年です。

まず、本年度区連協の活動内容を紹介します。

- 定例会開催(隔月)
- 役員会(随時)

青葉区連合町内会長協議会

域連帯づくりに取り組みながら、行政及び関連機関との連絡協調に努めているところです。青葉区連合町内会長協議会が新組織となつて以来、地区連合町内会・単位町内会とのコミュニケーションをより一層深めるために、各地区の活動状況や諸情報を掲載した「青葉区連だより」を発行いたしております。配布部数は、各地区の班数プラス役員構成まで届くように配布しております。

まず、また、地域と行政との対話の場となる地域懇談会は、平成二年四月から十二月まで五地区(桜ヶ丘、荒巻、小松島、東六、北六西部の各地区)で開催され、地域要望課題や、行政の市政施策等について話し合われ、一月には、国見、台ノ原北部の両地区で開催が予定されています。

四月二十七日	理事会
七月九日	青葉区役所との懇談会
七月十日	青葉区連協だより編集会議
七月三十一日	り編集会議
十月四日	理事会
十一月八日	青葉区連だより編集会議
十二月十四日	同 編集会議

青葉区連合町内会長協議会

地区連合町内会	26地区
町内会(自治会)	410町内会
加入世帯数	85,240世帯
登録世帯数	97,340世帯

(5月1日現在)

○近年都市化が進む中で、市民の居住が集約的になる傾向が見られます。青葉区内のマンション及びアパート等の概要をあげて見ました。(末組織)

四十〜五十世帯 四十二ヶ所
五十一〜百世帯 六十一ヶ所
百一〜百五十世帯 二十ヶ所
百五十一〜二百世帯 三ヶ所
二百一〜二百五十世帯 三ヶ所
二百五十一〜三百世帯 四ヶ所
三百一〜三百五十世帯 一ヶ所

立町地区町内会連合会
会長 山口 進平

区連協二年目の活動

- 4/27 総会開催
- 9/11 市の施設見学
- 10/17・19 先進都市視察(各区副会長)名古屋方面
- 1/17 新年会

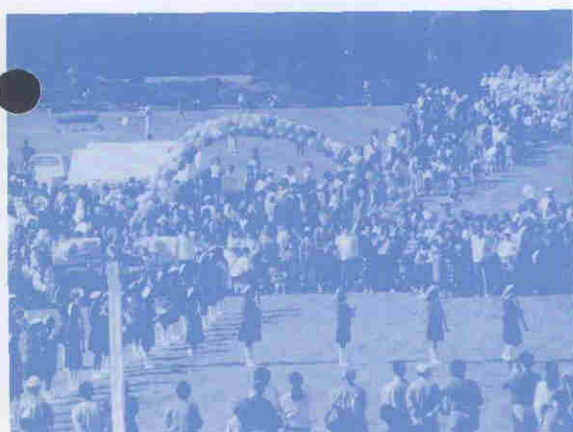
なお、本年度の区長表彰は三人、また地域懇談会の開催は四地区(原町、高砂、宮城野、岩切)となっております。

このような日常活動の中で、単位町内会においても、地域の諸問題を区に通して解決していくことが定着 あります。

特に当区は、秋口以降、台風による度重なる水害に見舞われましたが、関係する地域懇談会においてもこの問題を早速取り上げ、市の早急な雨水対策を要望しております。

「地元学講座」の開催

各連合町内会長が参加して実施している区民ふるさと創生事業においては、十月三十一日、榴岡公園に四万六千名を集めて「み・や・ぎ・の・まつり」を盛大に開催しました。また、地



み・や・ぎ・の・まつり



域の特色を探り愛着を深めるための「地元学講座」を開催しておりますのでご紹介いたします。目頃何気なく過ごしている地域も、あらためて時間をかけて歩いてみると、古い町並みやいろいろな人の生活の匂いが浮かび上がってくる。名所旧跡ではなくとも、そういうものが「ふるさと」の原形ではないか。

若林区



若林区は仙台市の南東部に位置し、地形、気候、生物、水利などの住居環境に恵まれ、豊かな耕土が展開していたので早くから稲作農業が行われていたようでありま。

弥生時代から引続き人間の住むところとなり、古墳時代には既に大きな聚落が形成されていたといわれております。

遠見塚や法領塚をはじめ近くの遺跡から出土した。折型式土器(薄手の手づくり土器で、器形は甕、鉢、壺)からその当時の一面を推量することができま

このような視点に基づき、誰でも、どこでもできる「ふるさと発見」として始めたものです。

町内会、老人クラブ、社会学級、区内各市民センターの協力により、四十名の受講者が九月から計十回の講義、話し合いを行いました。(実地調査はグループごとに十回以上実施) 原町本通りと榴岡公園をモデ

区民参加の歴史を生かしたまちづくり

このように、若林区は、文化遺産に開かれた豊かな生活環境が展開しております。

昨今、区民の間から歴史と文化を地域づくりに生かすための方策を考えようとか、史跡を生かした史跡公園を自分たちの手で図面を引き区長さんに要望しようと言った区民の声を耳にするようになりました。このことは、若林区民が郷土の歴史に対して興味と関心をもつて新しいまちづくりを区民参加のもとに実施しようとする意志の発露であります。

若林区民ふるさと創生事業実行委員会(堀江正一委員長)では、区民に区内の遺跡や文化財の知識を広く啓発するため、四月に作成しました散策ガイド・

ル地区に、五グループに分れて、植生や石碑、まちの生活史や風習、昔の町並みなどを、時間と手間をかけ、丹念に調べました。地元の町内会や老人クラブ、商店の皆さんの暖かい協力により、地図やイラストを交えた各グループごとの報告書が出来上がり、現在、統一した報告書をまとめている最中です。

マップ「ちょっといい感じ」WAKABAYASHI」をもとに実際に歩いて見聞をしようにとふるさと史跡めぐりを九月十六日に、講師に遠藤公先生をお迎えして実施しました。

また、区内の四つの市民センターでは、若林区を視る講座が九月二十二日から四回にわたって開講されました。講座は、若林区の歴史、特に史跡(遠見塚古墳、法領塚古墳、国分寺、若林城)の歴史的な背景や文化財としての意義や古代人の知恵と工夫など、文字どおりのおもしろ歴史物語の講座、縄文土器作り体験講座では、実際に縄文土器の模倣作品を作り、遠見塚古墳祭り(十一月十日、遠見塚小学校々庭)の土器の野焼きコー

三 専門家、経験者を中心

に指導していただきましたが、受講者自身の地域を知ろうという熱意と努力により、調査から報告書作りまで、全部を自分達の手で企画実施し、今後のまちづくりや行政にとっても、大変貴重なものができております。

二月には、地元学講座の「まとめ」を元に、町内会や各種団

体の皆さんと「フォーラム」を開催する予定です。

平成三年度は地元学講座をさらに充実して、各地区で開催できるようにすれば、「ふるさと創生」とともに、地域コミュニティ振興に大きな役割を果たしていくでしょう。

(宮城野区連合町内会長 協議会会長 永田 百男)

ふるさと史跡めぐり



ナーで作品を完成させました。
古里講座（歴史の散歩道）では、区内の史跡などを考察しました。このほか、小中学校の児童・生徒が描いた（文化財、町並、未



仙台市が政令指定都市に移行してから早や二年近い月日が過ぎようとしております。

我が太白区連合町内会長協議会も政令指定都市実現とともに発足し、以来事業計画に基づき各種事業を実施してまいりました。

とくに本年度は協議会設立二年目でもあり、事業も軌道にのってきているところです。

まず、平成二年四月十二日、「連合町内会長と区長を開む懇談会」を開催いたしました。

当日は、尾崎区長をはじめ小山理事、鈴木総務部長及び芳賀地域振興課長ほかの出席をいただき、なごやかな雰囲気なかで、区長さんと連合町内会長さん達との初顔合わせを行いました。

来像）の作品の絵画展（十月十七日～十一月四日、若林区役所一階ロビー）を行うなど区民が一体となって行事を盛りあげました。

太白区連協の活動について

次いで、五月十日、秋保地区が行政委員制度から町内会組織となり、馬場、長袋、湯本地区の三連合町内会を設立をして当協議会に加入いたしました。

五月十四日、理事会開催。

五月二十八日、二十九日の両日に「施設を見る会及び移動総会」を開催いたしました。

総会は太白区の奥座敷である秋保温泉において行われ、尾崎区長をはじめ、小山理事、鈴木総務部長、秋保総合支所長ほかの出席をいただき、平成元年度の事業報告、決算報告、平成二年度の事業計画および予算案についての審議を行い、これからの活動に対する意見が数多く出されました。

六月十日、市制百一周年を祝う式典がホテル仙台プラザで行われ、その席上、市政の発展に格別の功績のあった特別市政功労者一名、市政功労者二十四名が表彰されました。

講座の締めくくりとしてのシンポジウム（未来の若林を語るつどい）では、歴史的な価値、自然、景観、人間性などを背景としたまちづくりの提言、意見

太白区連協からは荒川鷹十郎さんと太田勉さんの二人の連合町内会長が自治功労者として表彰を受けました。

六月十二日、市の総合防災訓練に参加し、非常時の対応についての教訓を学びました。

今年二回目となった「太白区民ふるさと創生事業」については太白区連協が中心となり、「太白区民ふるさと創生事業実行委員会」を設立し、七月十三日、第一回の実行委員会が開催されました。

その後数回の実行委員会及び各部会を開催し、「太白区民ふるさとまつり」として、十二種類の催事を太白区役所周辺において九月二十七日から十月三日までの七日間開催されました。本まつりは九月三十日開催され、あいにくの空模様にもかかわらず、昨年を上回る約五万二千人の出入を得て、無事終了することができました。

がありました。

若林区連合町内会長協議会においても、区民の意向をふまえ「歴史を生かしたまちづくりの区民運動の必要性を痛感すると

これもひとえに参加団体の方々の並々ならぬご努力と区役所職員のご協力によるものと深く感謝致しております。

十月八日、「移動研修会」を

ともに仙台市政に強く提言をしようと考えております。

（南小泉地区連合町内会
会長 大友 勲）

開催致しました。

研修会場は、釜房湖畔で行われ、今後の太白区連協の活動や太白区らしい街づくり等についての意見が数多く出され、内容



太白区連協研修会

の充実した研修会となりました。
太白区連協は連合町内会数十七、単位町内会数二百四十一という大世帯であり、その内容も多種、多様にわたっており、今



泉区連協も発足二年目を迎え
加盟二十連合町内会、会員百十
六町内会の組織となりました。

会員相互の連絡協調強化と、親
睦交流促進を図るためにも本年
度事業計画の主眼点は自らの研
鑽を目的とした研修会の実施を
することにより、意見情報交流
の輪も広げ、一層の親密なコ
ミュニケーションの場とするた
めに二回の研修会を開催いたし
ました。

平成二年九月二十九日と三十
日、連合町内会長研修会を東鳴
子の荒雄荘で開催しました。第
一部の研修は泉区社会福祉協議
会の源哲郎氏を講師に福祉事業
三団体（社会福祉協議会・日本
赤十字社・共同募金会）の歴史
沿革現状とこれからの高齢化社
会に対応しての社会福祉事業の

後の運営について相当の努力
をしていかなければなりません。
太白区は豊かな自然環境に恵
まれ、今後とも発展が予想され
る地域です。

泉区連協研修会

傾向について、明解に縷々説明
があり、益々町内会として福祉
事業に対してのかかわりが重要
であることを痛感した次第です。
第二部には各町内の福祉協議会
事業への取組んでいる現状等につ
いて、

住吉台連合町内会長佐藤忠寿
八乙女連合町内会長栗原茂治
泉ヶ丘連合町内会長鈴木幹夫
の三氏による発表があり、隔意
ない意見の交換も出来て大いに
参考になりました。区役所より
は佐藤次長さん、佐藤総務部長
さんの来賓をお迎えして有意義
な研修会でありました。

次に区連協会員町内会長研修
会を十一月二十五日・二十六日
に開催いたしました。十一月二十
五日は日曜日でしたが区役所の
会議室を解放して頂き「泉地区
の郷土史物語」と題して講師に
島貫裕氏（松陵市民センター館
長）を迎えて講演を頂きました。
泉区は昭和三十年代後半から

農林地域と住宅地域とが見事
に調和した緑豊かな地域であり、
これらの地理的環境を背景に今
後の街づくりを進めていかなければ
なりません。

急速に団地の造成が進んで仙台
のベッドタウンとして発展を遂
げてきていますが今も多くの史
跡が原形に近いままに残されて
いて、歴史は古く石器時代から
始まり、七北田川沿いの丘陵地
帯から縄文土器、石器など多く
の出土が見られると言う。史実
に基づいて奈良時代・平安時代
から鎌倉時代・戦国時代・江戸
時代に沿って土地を支配した人
物や地名の由来等について鮮明に
解り易くその年代にタイムス
リップしたような感じがする講
演に一同は真剣に聴講しました。
明治・大正・昭和の泉地区の行
政機構の変遷についてもその時
その時の問題が将来の史実に明
記されるであろうと、最後に講
師より開発による経済万能主義
の世代においても史跡を尊重す
る心を大切に泉の地に愛着を
持つて頂ければ私の無上の喜び
ですと強調されました。
私たちはこれからの「ふるさ

町内会活動は地域のコミュニ
ケーション促進の場であり、福
祉の増進と地域の発展を重点目
標としております。
太白区連協としてもこれら町

と」とする地域の史跡をもっと
知り住みよい「愛と活力にみち
た街づくり」に一層の精進をす
ることが必要と今日の研修で切
実に感じた次第です。

尚この研修会においても三浦
区長さん、佐藤次長さん、佐藤
総務部長さんより来賓として
ご臨席を頂き、三浦区長さんよ
り「これからは地域の発展のた
めに今よりも増して町

内会と行政との連携を
密にしていきたいと思います。
皆さんのご意見を率直
に聞かせて下さい」と
ご挨拶があり感銘をあ
らたにいたしました。
第二会場を奥松島の簡
保センターに移して和
気あいあい各々の町内
会の運営等の情報交換
ができて、次の研修会
に大きな希望をつなぐ
ことが出来ました。

この研修会に対し区
地域振興課長さん始め
皆さんのご尽力に心か
ら感謝申し上げる次第
です。

これからは区連協の



泉区連協研修会

内会活動の意義をふまえ、なお
一層の活動を目指し努力してま
いる所在でございます。
太白区連合町内会長協議会
会長 早川五兵衛

事業として、区行政の副都心と
しての発展に町内会として果す
役割分担、区団地間の交通ア
クセスの問題や、ふるさと祭り
の区連協の参画等山積みする諸
問題にも積極的に行動していく
べきかと存じます。
南中山連合町内会
会長 下間 重信

先進都市「名古屋」を訪ねて

仙台市連合町内会長会

庶務理事 伊藤 馨

住民自治組織のあり方、運営方法等について調査するため、政令市の先輩である名古屋市の視察した結果について概要をご報告いたします。

名古屋市の面積三二六、三七平方キロの市域に、世帯数七八〇、二七一世帯、人口二、一四九、八七〇人（平成二年八月一日現在）を擁する都市であり、人口密度は一平方キロあたり六、五八七人と仙台市の一、一六四人に比較して過密都市の様相を呈しております。

名古屋市の住民自治組織の生きたちは、三十年程度及いたします。昭和三十四年九月に襲来した伊勢湾台風の数々の経験を貴重な教訓として、昭和三十五年五月に「名古屋市災害対策委員規則」を制定し、この規則により災害対策に関して市民と密接な連絡を確保し地区防災救助の万全を期するため、町の区域毎に災害対策委員を市長が委嘱したことからはじまっている。

しかし近年複雑多様化してきた市区行政を円滑に運営するためには、市区政に係わる情報を市民に伝達し、市民の市区政に

関する意見を反映させ市区及び市民相互間における連絡を密にし、市民が市区政への積極的な参加を期するため、名古屋市区政協力委員規則（昭和四十三年六月一日施行）を制定し区政協力委員（非常勤特別職）を委嘱し、災害対策委員を兼務させております。

一、市区が行う広報、広聴活動及び災害対策に協力すること
二、地域における社会教育活動及び運動の推進を図ること
三、その他市区行政の連絡及び協力を行うこと

区政協力委員の選任方法
区政協力委員は、町の区域ごとに一人ずつ置き市全体で約五〇〇〇人委嘱されており、選任にあたってはその職務上当該地域の住民自治組織の長が兼務することと地域の運営上望ましいという意図から、各種団体（町内会、自治会等）の役員を委嘱している。なお市、区が発する文書等（市政だより等を含む）の配布事務は、区政協力委員制度とは別に名古屋市通達員制度を設けて対応しております。

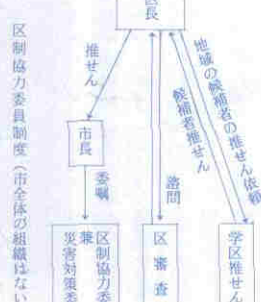
市からの助成金、報酬等
一、学区区政協力委員会に対する事務事業費補助
一学区当たり 年額四二〇、〇〇〇円

二、区政協力委員に対する謝金（一人年額二三、五〇〇円）
三、災害対策委員に対する謝金（一人年額二三、五〇〇円）
計四七、〇〇〇円

四、学区区政協力委員活動用旅費
（学区委員長 一人年間三六〇回乗車 一八〇円券）
（一般委員 一人年間一五回乗車 一八〇円券）

五、六五歳以上の市民には活動旅費とは別に無料乗車券を交付

市連合会の活動



付している。
マンション等居住者の町内会加入促進については、市区が発行する市政だよりなどの配布については、町内会の結成または加入までの間、区政協力委員が子供会や各団体の事業を含めお世話をし、町内会の結成または加入を余儀ないよう仕向けている。
以上概要をご報告いたし稿を終わります。

市連合会の活動

2・1・10 市連だより第1号発行（通算20号）
1・22 理事会・新年会
3・6 正副会長会
3・14 理事懇談会
3・14 理事懇談会
平成元年度会務報告について
平成元年度収入支出決算見込について
平成二年度事業計画（案）について

平成二年度収入支出予算（案）について
内規及び申し合わせ事項の改正について
永年勤続会員表彰について
4・5 正副会長会
平成二年度理事会に付議する議案について

編集後記

会報第二号の発刊にあたり、ご多忙のところ玉稿をお寄せくださいました石井市長さんをはじめ、関係機関の皆さまがたに厚くお礼を申しあげます。

（編集委員会）
委員長 伊藤 馨（庶務理事）
委員 山口 進平（青葉区）
同 相沢 力男（宮城野区）
同 堀江 正一（若林区）
同 玉山 康雄（大白区）
同 椎井 一（泉 区）

4・18 市長との懇談会
4・19 理事会
平成元年度会務報告について
平成元年度収入支出決算について
平成二年度事業計画について
平成二年度収入支出予算について
永年勤続会員の表彰について
8・24 市三役との懇談会
10・17 先進都市視察（名古屋市）
10・18 静岡市来庁
10・30 正副会長会
区連協会運営補助金について
市政懇談会の開催について
二十年誌の編集について
11・22 市政懇談会